

開館記念特別展「文学と歴史でたどるくまもとの記憶」

九州のほぼ中央に位置し、古くから行政、交通、経済のかなめとしての歴史を歩んできた熊本。多彩な歴史を背景としつつ阿蘇や天草に代表される豊かな風土に育まれた文学も数多く残されています。文学や歴史はともに地域を知るための道しるべです。先人のたゆまぬ努力により、いまに伝えられた資料をもとに、ふるさと「くまもとの記憶」をたどります。

■展示室 1

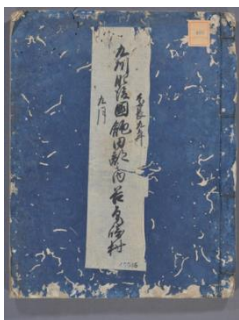
(1) 文字に記されたくまもとの記憶

熊本県立図書館・熊本近代文学館に保存されてきた数多くの記録は、時を超えてくまもとの来し方をいまに伝えます。

加藤清正による国づくり、江戸時代における社会の成熟、明治維新・西南戦争など、珠玉の資料をもとにくまもとの歴史の流れをたどります。

【主な展示資料】

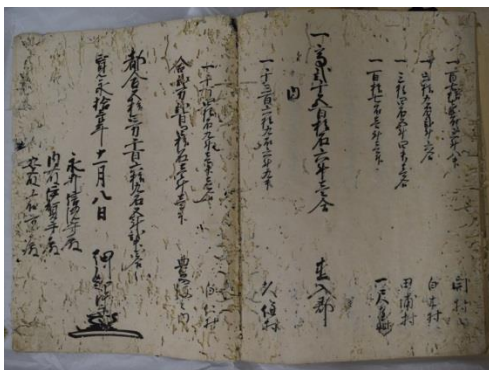
ひごのくにけんちしよちよう 肥後国検地諸帳《熊本県指定重要文化財》



肥後国検地諸帳は加藤家と熊本藩が作成した土地基本台帳です。加藤清正による天正17年(1589)の検地帳、徳川家康に提出された「御前帳」である慶長9年(1604)の検地帳の写し、細川氏統治時代の地撫帳、下ヶ名寄帳、地引合見図帳、再地引合下ヶ名帳など、近世を通じて検地帳が残されています。このように検地帳がまとまって現存しているのは全国的にも珍しく、学術的にも高く評価されています。県立図書館には約4,000冊が所蔵されています。

今回、初本格公開。

ひごのくにごうちよう 肥後国郷帳



肥後国郷帳は寛永11年(1634)11月8日に熊本藩主細川忠利から幕府に提出した帳簿の副本です。各郡高を記した後に熊本藩の総石高54万1,169石5斗2升4合を記しています。ここに熊本藩54万石の表高(公の石高)が確定し、以後江戸時代を通じて踏襲されます。その最初の郷帳です。

今回、初公開。

※その他の展示予定資料

相良文書(相良清兵衛事件)、県政資料(西南戦争記事)など。

(2) 絵図に残されたくまもとの記憶

くまもとの姿を写す絵図や地図は、ありし日の風景や人びとの営みをよみがえらせます。

熊本・人吉の城内・城下の様子や干拓を描いた絵図などを展示し、江戸時代を中心とした熊本各地の様子を紹介します。

【主な展示資料】

くまもとやしきわりしたえず 熊本屋鋪割下絵図



寛永9年（1632）に熊本へ入国した初代熊本藩主細川忠利が、加藤氏統治時代の絵図を利用して、熊本の城内・城下に家臣の屋敷地を割り当てた時の絵図です。原図と嘉永4年（1851）に模写された絵図の2点が県立図書館に残されています。加藤氏の家臣団を含めた屋敷の配置図では、原図としては最古で、唯一の絵図であり、大変貴重です。今回は模写図を展示します。

※その他の展示予定資料

熊本藩の絵図（二の丸絵図など）、人吉城の絵図、ななひやくちょうしんち七百町新地の干拓絵図など。

※図書館所蔵の熊本藩の絵図とは

熊本藩は土地を把握するために各種の絵図を作成していました。明治4年（1872）の廃藩置県と共に熊本藩から白川県（のちの熊本県）へ、昭和22年（1947）に県立図書館へ移管されました。熊本藩の絵図は、肥後国全体の図である「国絵図」、熊本城下全体を描く「熊本府の絵図」、熊本城を描く「熊本城の絵図」、城下各町を描く「城下の絵図」、熊本府外の武家屋敷や郡・手永を対象にした「各郡の絵図」、肥後国以外の「他国の絵図」など、約360点に及びます。今回、初本格公開。

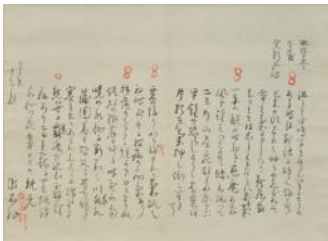
（3）人物に彩られたくまもとの記憶

くまもとの豊かな風土と学問を尚ぶ気風のなかで、多士済々の人物が時代を切り拓いてきました。

肥後の鳳凰と呼ばれた名君・細川重賢、世界に目を向けた思想家・横井小楠、愛され続ける文豪・夏目漱石など、くまもとが育んだ人物とその文芸の魅力などを紹介します。

【主な展示資料】

「夏目漱石句稿」（明治30年、夏目漱石作 正岡子規添削）



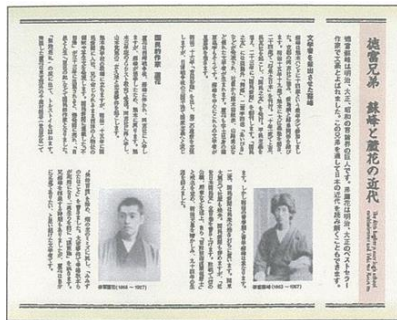
夏目漱石が熊本在住時代に作成した俳句を、正岡子規が朱で添削した書簡です。両者の署名が入っています。俳句仲間が訪問した時のことを詠んだ句や、「新屋敷」など熊本の地名を詠みこんだ句が書かれています。今回、初公開。

※その他の展示予定資料

こんちゆうしよかづちゆうるいきうつしげんこう伝細川重賢「昆虫胥化圖蟲類生寫原稿 写」、横井小楠漢詩軸、しはいふ「詩牌譜」など。

■展示室2 文学で見るくまもと

近世から現代までのくまもとの文学の流れを、歴史的背景とともにパネルや収蔵資料で展示
 パネルタイトル
 熊本の近代への胎動、近代の夜明け、明治国家と教育、モダン都市熊本、戦後のスタート
 ひろがりゆくジャンルへ



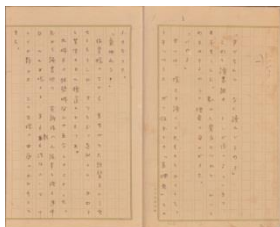
【主な展示資料】

木下順二自筆原稿「鶴女房」



昭和23年（1948）に発表された「夕鶴」の元となった作品です。昭和18年に書かれた木下順二の最初期の戯曲で、もう一操作加えて書き直したいという思いがあって発表が控えられていたため、この原稿でしかその内容を知ることができません。

徳永直自筆原稿「工場新聞」

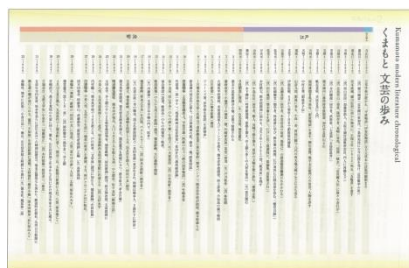


当時のプロレタリア文学作家は、時代の影響を大きく受け、表現の規制を余儀なくされていました。徳永直の小説「工場新聞」は、検閲で伏せ字にされた上で作品が掲載されていました。この原稿から伏せ字になった箇所を明らかにできます。

文学の理解を助けるパネル

年表「くまもと 文芸のあゆみ」 300項目以上の文芸事象を紹介

風土と文学紹介パネル 熊本を4地域に分けて、各地の風土とゆかりの文学者を紹介



収蔵資料デジタルコレクション

4 2型のタッチパネルで収蔵資料を検索、閲覧ができます
熊本ゆかりの作家32名の略歴と

代表的な収蔵資料を紹介

県立図書館所蔵の絵図・地図361点を一挙公開

近代文化功労者を紹介

→興味をもったものについては隣に設置している

図書館蔵書検索機で、参考図書をすぐに検索可能



■展示室3

旧砂取細川邸庭園の展望を楽しめる交流空間

熊本県近代文化功労者の紹介パネルを常設

水前寺成趣園・江津湖周辺や

近郊の文学・歴史関連施設を紹介するマップパネルを常設

熊本近代文学館の映像アーカイブをはじめ、江津湖の風景や

展示会に関連する映像などを自由に見られる機器を常設

関連する図書も展示

